

男女共同参画の日

市では、男女共同参画についての理解と関心を深め
令和5年11月12日(日)いわきアリオスで「男女共

男女共同参画に関する川柳 入賞作品

654人の市民の皆様から、1,282句のご応募をいただきました。小学生の部、中学生の部、高校生の部、大学生・一般の部の各部門毎に厳正なる審査を行い、入賞作品を次のとおり決定しました。

小学生の部

<p>優秀賞 なみぬいは 母より細(こま)い 祖父のわざ 【御厩小学校五年】 佐藤 望乃さん</p>	<p>優秀賞 きたいふく きちやいなよ きにすんな 【小名浜海星小学校三年】 近藤 凜希さん</p>	<p>最優秀賞 背中がね 同じに見える 父と母 【大浦小学校六年】 大山 空瑚さん</p>
<p>審査員特別賞 お母さん 土日もがんばる 看護職 【大浦小学校六年】 遠藤 優龍さん</p>	<p>佳作 パパの日は リクエストしたもの 食べられる 【中央台東小学校四年】 須藤 景一朗さん</p>	<p>佳作 パパつくる メニューはいつも チャーハンだ 【湯本第三小学校二年】 木下 優月さん</p>

中学生の部

<p>優秀賞 君の個性 隠さなくていい さらけ出せ 【小川中学校二年】 鈴木 心裕さん</p>	<p>優秀賞 ワンチーム 共に見てきた 喜怒哀楽 【小川中学校二年】 佐藤 奈月さん</p>	<p>最優秀賞 協力で 頼りきりから 卒業へ 【内野第二中学校三年】 岡崎 拓海さん</p>
<p>佳作 部内戦 男女混合 負けないぞ 【入遠野中学校三年】 佐藤 柊斗さん</p>	<p>佳作 食洗機 入れる枚数 競う親 【小川中学校一年】 野本 莉緒さん</p>	

高校生の部

<p>優秀賞 お父さん 「家事手伝うよ」は 間違いです。 【磐城桜が丘高等学校一年】 志賀 日和さん</p>	<p>優秀賞 父作る 名も無き料理 おいしいよ 【小名浜海星高等学校二年】 大槻 悠斗さん</p>	<p>最優秀賞 晩ごはん おいで分かる 調理人 【いわき湯本高等学校三年】 大隅 輝弥さん</p>
<p>審査員特別賞 野手めがけ ノック打ってる マネージャー 【磐城桜が丘高等学校一年】 吉田 怜生さん</p>	<p>佳作 未来の彼の エプロン姿に ときめきたい 【磐城桜が丘高等学校一年】 鶴山 心咲さん</p>	<p>佳作 共稼ぎ 家でもそれぞれ 共働き 【磐城桜が丘高等学校一年】 宇野 陽喜さん</p>

大学生・一般の部

<p>優秀賞 子が帰省 夫婦で作る 家の味 【古川英樹さん】</p>	<p>優秀賞 二人目で 初めて知った おむつの香 【桑宮順子さん】</p>	<p>最優秀賞 プロポーズ 決め手は家事の 半分こ 【小澤健一さん】</p>
<p>審査員特別賞 風評へ 浜の母ちゃん 網を引く 【小澤健一さん】</p>	<p>佳作 手をば取り 笑顔で作る 夕餉かな 【布施敏家さん】</p>	<p>佳作 かっこいい! バス運転士 ぼくのママ 【下山田恵子さん】</p>

学校賞

市立大浦小学校・市立小川小学校・市立湯本第三小学校・市立小川中学校
市立桶売中学校・市立上遠野中学校・県立磐城桜が丘高等学校・県立小名浜海星高等学校

講評

猛威を振ったコロナ旋風もやっと5類入りとなり、市民生活も落ち着きを取り戻した昨今です。世情も明るさを取り戻し、応募されたたくさんの作品にも反映されました。一般社会、家庭、学校、それぞれの分野での男女共同参画の意義がたった17文字で表現される川柳は、素晴らしい文芸だと改めて感じさせられました。一家族一家族がいわき市の基盤です。市民の一人一人が心を寄り添わせ、明るい未来を築いていくことを切に願います。
川柳選考会審査員 真弓 明子

るため、11月の第2日曜日を「男女共同参画の日」と定め、「男女共同参画に関する川柳や写真」を募集しました。同参画の日」事業として、川柳・写真の入賞者の表彰式や講演会などを行いました。

「男女共同参画に関する写真」入賞作品

16点のご応募をいただきました。厳正なる審査を行い、入賞作品を次のとおり決定しました。

最優賞



優秀賞



「あーん」加藤 温恭 さん

「いつも楽しく食す」をもっとうにしています。

「祖母から父へ受け継ぐ故郷の味」

小名浜第二中学校3年 遠藤 悠真 さん

祖母の作る料理は絶品だ。
祖母から父へ故郷の味を受け継ぐ親子の姿は、まさに神秘的だった。

佳作

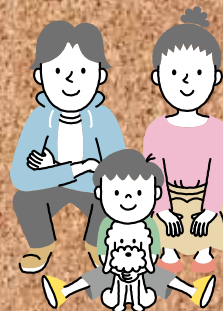


「家族団欒 おいしいごはん」

上遠野中学校3年 平子 杏果 さん

みんなでそろって食事した夕飯の思い出。

審査員特別賞



「週末のお手伝い」

ふたば未来学園中学校2年
川嶋 暖大 さん

週末は、家族で家事を分担しています。僕と弟の役割の1つが、玄関のはき掃除です。協力してやっています。

講演

コロナ禍による長いトンネルを抜けて、気持ちが外へと向かっている、家族写真やお手伝いの写真からもその雰囲気を読み取れるような気がしました。明るい雰囲気の写真に心がとてもほっこりしました。そして、これらの光景がいつまでも続くこと、また一人一人が自分らしく生きていける社会になるよう、強く期待したいと思います。

写真選考会審査員 加藤 藤子